

■ 登場済みキャラクター ログホラ資料館

- ・この資料は、「小説家になろう」で連載中のテキスト、「ログ・ホライズン」および、二次創作用に書かれました。
- ・資料としての本体はログホラWikiとなります (<http://www26.atwiki.jp/loghorizon/>)
- ・この作業ページは、Wikiにまとめる資料を作業するスペースです。公式設定として固まったものは、Wikiに順次転載され、こちらからは消去されてゆきます。
- ・誰でも閲覧編集が出来ますので、自由に設定を追加してみてください。水色文字は「お知らせ」で、黒文字は公式設定、赤文字は非公式設定と云うことで、ひとつ。
- ・wikiにたいして引越しを行なってくれる方も歓迎です。(黒字のものを整理しつつ転載してくれるのがベストです)

関連ページリンク(ログホラwiki内部に存在。ブックマークはこちらをお願いします)

<http://www26.atwiki.jp/loghorizon/pages/40.html>

10/11/24 ひとまず〈Plant Hwyaden〉以外のキャラをwikiに移項。wikiの方向性に対する疑問から、未登場要素(コッペリアの正体)を一応除きました。

登場済みキャラクター

■シロエ

◆直継

◆アカツキ

◆にゃん太

◆トウヤ

◆ミノリ

◆五十鈴

ルンデルハウスは彼女の武器の選択が面白いとのたもうたことがあり、ユーレッド大陸西部の〈スマッシングギター〉のような武器/楽器の伝説や噂を聞きつけたらきっと「取りにいこう！僕も最大限の助けになるさ！」とかけしかけるにちがいない。

◆ルンデルハウス＝コード

◆マリエール

◆ヘンリエッタ

◆小竜

◆アイゼル

◆セララ

■“黒剣”のアイザック。

■レザリック

■アインス

■〈狂戦士〉クラスティ。

◆高山三佐

◆リーゼ

■ウィリアム＝マサチューセツ

■ソウジロウ＝セタ

◆ナズナ

効率と安定が重視されがちなオンラインゲームにおいて、確率と「運」という不安定要素に賭ける、ヒーラーらしからぬプレイスタイルを好む。サブクラスは当然のように〈ギャンブラー〉。

「分の悪い賭けは嫌いじゃない」を地で行く性格で、しばしば窮地に陥って仲間をハラハラさせるが、ここ一番での豪運には定評があり、トータルでは期待値を上回る働きを見せてきた。

『自身の財産および、(全装備を外した)全裸状態でアキバー周の罰ゲーム』を賭けた大勝負における終盤の逆転劇は、古参プレイヤーの間では有名。

いわゆるお姉さんタイプの女性で、酒好き。よく酔っ払ったままログインして寝落ちしていた。

◆詠《よみ》

〈放蕩者の茶会〉の元メンバー。大災害時、〈エルダー・テイル〉にはログインしていなかった。

女性。

◆沙姫

〈放蕩者の茶会〉の元メンバー。大災害時、〈エルダー・テイル〉にはログインしていなかった。

ナズナ、ソウジロウとともに、〈西風の旅団〉を立ち上げた初期メンバー。

◆カナミ

〈放蕩者の茶会〉の元リーダー。一時期〈エルダー・テイル〉から離れていたが、西欧サーバで新キャラを作成してゲームに復帰していた。現在のメイン職業は〈武闘家〉《モンク》。その性格は傍若無人。KRにも〈放浪者の茶会〉は率いていたのではなくひっかきまわしていたのだと言われている。

スキルを手動で発動させる事によって、ゲーム時代ではありえないコンボを駆使して戦う

その結果、戦闘において驚異的なダメージを叩き出す

◆KR

〈放蕩者の茶会〉の元メンバー。

エルフの|〈召喚術師〉《サモナー》にして〈ちんどん屋〉
罰ゲームで〈ちんどん屋〉をやらされた《サモナー》その人
基本的な戦闘スタイルは《サモナー》のくせに近接が主体

〈放浪者の茶会〉に所属する前も後も、その特殊な戦闘方法ゆえに

PT戦闘では隊列の中間から全体のサポートをするのがメイン(サッカーで言うところのMF)

〈大災害〉以前はネタ特技であった〈幻獣憑依〉を駆使し、海外の情報を収集している。

※〈ガーネット・ドラゴン〉

KRの奥の手、従者契約によって力の大部分をセーブされていたが
KRが従者契約を破棄したことにより力を取り戻す。

■元KRキャラ案1

入る前に〈大災害〉が起きてしまったため
本来最後に立ち寄ったプレイヤータウンに強制的に戻されるはずが
サーバーの壁にぶつかり強制的に端っこ無人島に落とされた(幸い食料など諸々はなんとかなった、無論
果実以外煎餅味だが)

ある方法で日本のプレイヤータウンに帰還

『方法案その1』

幼少期から、英語を始め様々な言語を学ばされているためマルチリンガルである
〈彼女〉が突発的にオーロラを見に行きたいといった時も
その地方の言葉の通訳から攻略サイトの翻訳までこなしていた(でも基本はっちゃけた馬鹿)
〈エルダー・テイル〉は10歳からプレイしているが(現在20歳、将来は通訳で食っていくつもりだった)
その大半は海外サーバーで旅をしていたため、日本サーバーについては疎いと言う弱点がある
なお、海外サーバーのプレイヤータウンに寄ってから日本のプレイヤータウンに
なにかしらのファンタズマル級アイテムで帰還

『方法案その2』

龍を召喚できるため、それを利用して海越え移動するため
普通の人ではクエストが受けられない(KRはかなり運がよかった)
〈大災害〉以後、NPCだった龍も当然自意識があるため
〈従者召喚〉で召喚が使うものと似て非なるもの魔法を使っている龍に別大陸の《サモナーした人化した龍(※赤い髪の美しい女性)と情報を交わしながら日本のプレイヤー
その龍は大陸間を跨ぐ超膨大なクエストをこなして手に入れたスキル(茶会にも内緒、というかつかつた事が無い)
なお、このクエストは人化(人になるスキル、狐尾族)が話しかける事でスタート
しかも、その人化している龍が一定期間で大陸を一タウンに到着
なぜ今まで使わなかったかと言うと、近接メインで使う気ゼロだったからである(本人もスキルの存在を忘れていたくらい、龍はその事にたいして微妙にむくれた)
※見た目若い感じの実年齢1000歳、所謂ロリババア口調

『方法案その3』

偶然そばを通った〈航界種〉に助けられる

『方法案4』

フレンドリストに表示されているらしき点から、日本サーバーの何処かに居たことになりそう。
〈大災害〉の時点でどこかのプレイヤータウンに飛ばされていたことが言えるので、ススキノ、ミナミ、ナカスのどこか。しかし、ここで敢えて例外処理を考えて、韓国や台湾、オーストラリア辺りのプレイヤータウンに最後に立ち寄った状態で、沖縄で〈大災害〉を迎えたとする。基本的に最後に立ち寄ったプレイヤータウンに帰るところだけど、サーバーの境界は越えさせたくない。ということで、そのまま沖縄か、もっとサーバーとの境界になる無人島に運悪く飛ばされてしまう。(大地人の数が少ないので現実で無人島じゃなくても無人になる)
グリフォンの移動距離と使用時間(1日4時間)の関係で、次の島まで辿りつけずに海に落ちそうになるところで引き返す。後は脱出できない状態で何ヶ月か過ごすことになった。

元KR『キャラ案その2』

〈大災害〉が起きた後も、(馬鹿だから)特別何も考えずにいつも通り海外サーバーで旅する準備をナカスで行い

海外サーバーに旅に出た(なぜナカスなのかというと、大陸と交易路があるというのが設定的にいい!と本人が思ってるから)

ある理由から驚異的に大陸移動が早く

本人は意図していないものの、それが世界情勢の情報収集となっていた

ナカスをめぐってシロエと濡羽が対決している最中、そんな事はまったく知らないKRがいつも通りナカスに帰還

状況が良くわからないうちに真っ黒シロエに自分の存在を作戦に組まれる

『理由案その1』

上記の『方法案その2』と同じ

龍で空をすばやく移動していた(この場合は龍の存在は他の人には隠している)

ゲーム時代は人化させてプレイヤータウン内で待機命令をしていたが

〈大災害〉の後は自我がある+自分より圧倒的に頭がいいため

割と遊ばれている(龍の人化した時の姿と口調も上記『方法案その2』と同じ)

『理由案その2』

持ち主を行った事のあるプレイヤータウンにテレポートさせるファンタズマル級アイテムを所持

そのアイテムは「大陸を移動する大商人の護衛(仮称)」というクエストで

護衛し終わった大商人から友好の証としてもらったもの(そのクエストのスタートはアメリカでありゴールはナカスである。いくつもの大陸を陸路で旅する長いクエスト)

5大陸以上の大陸(サーバー)のプレイヤータウンに行った事がある人だけが受けらるクエストである

■“豪腕”のミチタカ

〈海洋機構〉の“豪腕”総支配人《ギルドマスター》。

アキバの街最大規模を誇る生産者ギルド〈海洋機構〉を率いる〈鍛冶屋〉。メイン職業は|〈武闘家〉《モンク》であるらしい。豪放磊落を絵に描いたような筋肉質の巨漢で、ギルドマスターでありながら様々な現場にも顔を出しているようだ。

にゃん太の発見した「新調理法」における騒動のおり、ヘンリエッタの話術で資金を提供してしまったが、その後はその利益性にいち早く気が付き、ギルドをあげてシロエの支援に回った。

〈海洋機構〉2500名を代表して〈円卓会議〉11ギルドマスターの1人となる。

■カーユ 〈海洋機構〉メンバー。〈エターナルアイスの古宮廷〉での舞踏会への派遣団の1人にして、ミチタカの随行員。ギルマスへの呼びかけは総長。

■“妖精薬師”ロデリック

〈ロデリック商会〉のギルドマスター。

アキバの街二位の規模を誇る生産者ギルド〈ロデリック商会〉を率いる〈調剤師〉。その規模は1800名。

サブ職業に相応しく、まるで大学の講師のような風貌をしており、言動もそれに準じた理知的なものだ。ヘンリエッタに云わせると、表面的にはクールだが、黒さが足りない、と云うことになるらしい。身長は170センチと男性にしては大きな方ではないが、贅肉の量が少ないために、遠目には長身に見える。街中では 白衣を常用し、メイン職業は|〈召喚術師〉《サモナー》。

〈ロデリック商会〉は〈海洋機構〉に比べて密なギルド構成を目指している。そのシステムの中心は徒弟制であり、より中世のギルドに近い形態を持っているようだ。

〈円卓会議〉11ギルドマスターの1人となる。

■カラシン

〈第8商店街〉を率いる敏腕商人ギルドマスター。

サブ職業は〈交易商人〉。メイン職業は|〈盗剣士〉《スワッシュバックラー》。

ハシバミ色の髪と瞳を持った人間の男性で、中肉中背。愛想の良い性格をしているために、知己は多い。

〈第8商店街〉は完全に生産職特化のいわゆる生産職ギルド。生産ギルドの中では販売にもっとも力を入れている。生産ギルドと云うよりは商人ギルドと云える だろう。実際に自分ではアイテムを作り出さずに販売を受け持つギルドメンバーも多く抱えている。その人数は〈海洋機構〉や〈ロデリック商会〉に続くアキバ 三位のサイズで、メンバー人数は約700名と巨大だ。〈三日月同盟〉マリエールの旧友でもあり、その円で〈円卓会議〉設立にまつわるシロエの作戦に巻き込まれることにもなった。

〈円卓会議〉成立後は11ギルドマスターの1人となる。

■ウッドストック

中規模ギルド〈グランデール〉の|代表者《ギルドマスター》。

黒い巻き毛の中年と云う余り目立たない容貌のドワーフ。メイン職業は|〈暗殺者〉《アサシン》でサブ職業は〈調教師〉。

〈グランデール〉はかつて成立を目指した〈中小ギルド連絡会〉の連絡中継を行っていた中核ギルドの一つ。

本人はそのぱっとしない外見に似合わず志も高く、特に中小ギルドには横方向にネットワークを持っている。またギルド未所属者に対するケアと顔の広さにも定評があるようだ。

その縁があり、〈円卓会議〉成立後は11ギルドマスターの1人となる。

■茜屋＝一文字の介

〈RADIOマーケット〉のギルドマスター。

黒髪を総髪にした純和風の外観を持つ人間の男性。メイン職業は|〈妖術師〉《ソーサラー》でサブ職業は|〈機工師〉《マシーナリー》。〈機工師〉は非常にレアな上級生産職であり、高レベルの〈細工師〉がクエストにより変更することによってのみなる事が出来る。その手間の割りにはメリットの少ないロマン系サブ職業でもあり、本人はかなり趣味人、かぶいた人格である。

もっともそのひねくれ具合を慕う人間も多く、アキバの街の有名人の一人。そういった存在感からかつて成立を目指した〈中小ギルド連絡会〉の中心人物でもあり、その縁で〈円卓会議〉成立後は11ギルドマスターの1人となる。

■レイネシア＝エルアルテ＝コーウェン

マイハマの街を治めるコーウェン公爵家のご令嬢で〈大地人〉。

長い銀髪に、華奢な首筋。全体的にほっそりとした印象を持つ美少女。特にたれ目の瞳は濃い青灰色で神秘的な愁いをたたえているように見え、「イースタルの冬バラ」と呼ばれる。儚げで瑞々しい美貌を持つ15歳。しかしその中身といえば、ぐんにやりしていることをこよなく愛する残念な植物系。

弟と、降嫁した姉とがいる。

◆エリッサ

レイネシア姫付きの侍女で〈大地人〉。

没落した下級貴族の出身であり、本人の意識はまるっきり町民だったが、侍女としては血筋の良さから抜擢され、本人の有能さもあってレイネシア付きとなった。

◆大嶋

ドワーフの|〈吟遊詩人〉《バード》にしてサブ職業は〈追跡者〉。

古い知己であるシロエの依頼で〈神聖皇国ウェストランド〉の情報を探っていた。行方不明。

■濡羽

〈Plant hwyaden〉のギルドマスター。

〈狐尾族〉の|〈付与術師〉《エンチャンター》であり、サブ職業は〈娼姫〉。

黒くウェーブした髪と、輝きの強い濡れたような瞳、女性美を結集したような天性の美しい姿形を備えている。また〈狐尾族〉であるために、狐頭部には耳、さらに臀部には尻尾があるようで、その色も黒だが先端部分は雪のように白い。表向きはどうであろうと、ミナミの街と神聖皇国ウェストランドの内裏という二つの領域を中心として、西日本に君臨する支配者である。

ミナミの単一巨大ギルド〈Plant hwyaden〉を設立し、現在でもその主催を務めている。

作中では、一般の〈冒険者〉が持ち得ないような特殊な技術を用いていたが、これは彼女本人が使える技なのか、何らかのアイテムによるものなのかはまだ不明。しかし、通常〈エルダー・テイル〉で確認されている範囲外の領域にアクセスできるのは、シロエと同様のものである。

045において初登場し、シロエを西ヘスカウトしようとするが断られる。

◆ゼルデウス

法儀族の|〈施療神官〉《クレリック》にして〈学者：博物学〉。

〈Plant hwyaden〉所属、開発担当。

強そうな名前とうらはらに相当なヘタレで、秧鶏やミスハに常にイジられ、カズ彦からは同情的な扱いを受けている。が、発想力に(多少変態的であるが)抜きん出た物を持っており、その点において一目置かれている。

〈キャラ案2〉シンプルなマッドサイエンティスト版(ラスボス候補版)・新キャラで追加するより、既存のキャラの設定に付け加えた方が自然だったのでそうしました。ダメでしたら削除なり転載なりをお願いします。

二つ名は"ドクター"元の世界では医大生だったが、あまり勉強に熱心な方ではなかった。

〈エルダー・テイル〉を始めたのも、暇を持て余したためである。

彼は、元々興味を抱いた事柄以外には、全くといっていいほど関心のない人物であった。

しかし、一旦興味を持ったことに対しては、寝食を忘れて追求するのが、彼の性格であり、その探求心は異常と言えるほどである。

あまり医者に興味がなかったにも関わらず医大に合格したのは、その性格のためであり、単に彼が人体構造に興味を抱いた結果に過ぎない。……ある程度学んだら、また興味が無くなってしまったが。

そんな彼も、〈大災害〉後は、大きく変わった。目標を見出せなかったその探求心がつい一定の方向を見出したのである。その方向とは、「新世界」自分達が呼び込まれたこの世界、そして〈大災害〉に関する探求である。そうして、目的を見出して以来、彼はその生来の優れた頭脳を全力で謎の解明にあててようになったのだ。

彼は、未知の探求のためなら、人体実験にすら全く忌避感を抱かない男であるが、その人としての良心が

欠落しているような性格については、本人にも一応自覚はある。過去には、多少自暴自棄になったこともあるが、現在は、ただその性格は変えられないものとして受け入れ、肯定している。

人付き合いはあまり得意ではないが、現在では、自分の目的のために我慢して会合に出たり、研究チームを何とか率いることぐらいは出来ているようである。

「人類の歴史は、未知を明らかにしていく過程であった。もはや現代では、未知と言えるほどの未知は、一部の秘境や、顕微鏡や望遠鏡でないと、見ることにすら出来ない場所にしかない。人類は大半の未知を克服したのだ。例え未知の領域があっても、そこは莫大な資金と時間をかけなければ辿り着けない、我々一般人には、手の届かない領域でしかない。だが、この「新世界」は違う。この世界が全くの異世界なのか、あるいはそうではないのかは分からないが、とにかく、ここは確実に未知の世界だ。」

「未知の解明には、常に犠牲が伴われた。別にそれが良いとまでは言わないが、必要であったことまでは、否定できないはずだ。」

「私が異常なことぐらいは、自覚しているつもりだ。ところで、君はどうなのだ？」

※案3(というか案2の追加に近い。マッドサイエンティスト路線が面白そうだったので)

マッドサイエンティスト。マッドといっても「ヒャッハー！」なアッパー系の狂い方ではなく、理性的かつ論理的に狂っている。一般的な常識や倫理観については充分以上に理解していて、可能な限りそれに沿おうと努力はする。見当違いな方向の努力を。常識や社会性を有……しているかどうかは微妙だが、少なくとも社会性を維持しようと努力する人間ではあるため、組織のリーダー的なポジションも辛うじて務まる模様。

知的探究心や向上心に満ち溢れ、常に努力を惜しまない情熱家。自分自身のことを真面目で誠実で善良な人間だと心の底から信じている。

犠牲者「もうやめてくれえ！ 知っていることは何でも話す！」

ゼルデウス「いや、喋らなくていい！ 喋るな！ 黙れ！ せっかく楽しくなってきたところなんだ。それにまだ試していない方法も残っている。もう少しがんばれ！ この程度の苦痛に負けるんじゃない！」

部下「いや、そんなに拷問したいんなら、一通り喋らせた後で好きなようにやりゃいいじゃないっすか……」

ゼルデウス「何を言っているんだ君は。拷問というのは手段であって目的ではない。取り違えてはいけない、拷問すること自体が目的になったら本末転倒だよ。私を変態的な趣味の持ち主のように言わないでもらいたいな(キリッ)」

◆映鶏(くいな(045)/インティクス(054))

〈Plant hywaden〉所属、財政担当

ハーフアルヴの|〈妖術師〉《ソーサラー》にしてサブ職業は〈メイド〉。

〈放蕩者の茶会〉の元メンバー。〈放蕩者の茶会〉〈放蕩者の茶会〉時代はカナミに心酔し、その忠実な(忠実すぎる)メイドとして仕えていたが、カナミがリアル事情を優先して〈エルダー・テイル〉を休止するという宣言を受けて、その愛憎は反転したようである。現在は濡羽に仕えるメイドとして〈Plant hywaden〉の対〈大地人〉政策や、対通常の〈冒険者〉施策を担当している。

彼女自身が狂信する「永遠の支配者」像に濡羽を当てはめようとしており、その狂気がミナミという街に、徐々に暗雲を呼び寄せようとしている。

◆カズ彦

〈Plant hywaden〉所属、治安担当

人間の|〈暗殺者〉《アサシン》にしてサブ職業は〈騎士〉。

〈放蕩者の茶会〉の元メンバー。責任感と義侠心が余りにも強かったゆえに、ミナミに魂を牽かれた薄幸の〈冒険者〉。鍛え上げた瘦躯を持つ武人であり、面倒見も良いために慕う者も多い。本来であれば〈Plant hywaden〉へ参加するつもりはなかったのだが、インティクスの懇願と、その懇願に含まれるいずれミナミに訪れる悲運を直感して、それを食い止めるために〈Plant hywaden〉のメンバーとなる。

治安担当者として、治安部隊〈壬生狼〉を率いている。〈壬生狼〉は〈Plant hywaden〉の下部組織だが、命令系統からは外れていて、ほぼカズ彦の私兵部隊と云って良い活動を行なっている。

現在では、傲慢になった〈冒険者〉がミナミで〈大地人〉に対して働く乱暴狼藉を取り締まっている。

◆ミスハ

人間の|〈暗殺者〉《アサシン》にして〈人斬り〉。

女性の将軍《ウォーロード》。

〈Plant hywaden〉所属で軍務担当。執行部の一人で〈Plant hywaden〉運営の中心的人物の一人。

災厄後の世界で独特の戦術観を武器に伸上がった女傑の一人。とてもDSで、好きな言葉は包囲殲滅と電撃戦。嫌いなものは弱者と無能。

でも無能が哀れに死ぬのを見るとゾクゾクくる。

ちょっとだけ包囲を解いて、出口に火力を集中するのがたまらなく好き。

あるいは間抜けをたたき起こしてパニックの内に蹂躪するのも大好き。

ただし、包囲殲滅に突入するのは十分に条件が整っている場合であって、

包囲が難しい状況なら単騎で大将狙いぐらいは簡単にやってのける技量を持っている。

数と連携に勝れば包囲殲滅、数で劣れば電撃戦。

「もう【コレ】はゲームじゃないのよ。てことはフルレイドの枠にこだわる必要なんて無いわ。圧倒的な物量で潰せば簡単じゃない？」

「虫けらは踏み潰すに限るわね。プチっていうのが醍醐味っていうのかしら」

■エリ阿斯=ハックブレード

13騎士団の1つ、〈赤枝の騎士団〉に所属する〈古来種〉。

人間の男性。|〈刀剣術師〉《ブレイドマンサー》にして〈尊き血族〉。

妖精族の剣技を伝える無敵の勇者——などと解説サイトには描かれる、世界的に有名な北欧サーバのNPCだった。〈エルダー・テイル〉の公式デモ動画にもヒーロー然として登場する(そして〈冒険者〉に助けられる)ので、ちょっとした有名人である。もちろん日本のプレイヤーにも顔は知れ渡っているし、日本サーバに出現したことも何度もある。栗色の髪と栗色の瞳を持ち、藍色のアクセントラインが入った、純白の装甲コートを纏う。武器は巨大な両手剣|〈水晶の 清流〉《クリスタルストリーム》。気持ちが良いくらいに厨二病的『勇者』である。

運営側の設定した制約である、モンスターのHPを四分の一以下にはできずとどめは〈冒険者〉に刺してもらわないといけないという"〈妖精眼〉《フェアリーアイ》の呪い"のため、どうしてもひき立て役の英雄にならざるをえないことは否めない。

レベル100、〈ノウアスフィアの開墾〉は北欧サーバ所属の彼には時差の関係でパッチが当たっていないためか。

〈古来種〉として騎士の剣技と賢者の魔法を兼ね備える英雄が例外的に存在していてもいいけど<冒険者>みたいな人達が束になって存在するのは 常識を越えている、みたいな感想をレイネシア姫がep032でもらっていたが、剣技と魔法を兼ね備える英雄として運営が用意した人物がエリ阿斯である。ステータス画面からは<刀剣術師>《ブレイドマンサー》という職名が確認できるが、要は運営の都合が既存職業の枠におさまらなかったのである。

鎧 も盾も装備せずに剣だけで戦うのだが、振りおろされた剣に炎や氷や電撃がまとわりついたり軽いダメージや毒や病気は自分で治癒してみたり剣の切っ先で 空中に紋様を描いて敵に付与魔術を行使してみたりいろんな職業の能力を制限つきでちょこっと使えるいろいろもりだくさんな人。

だがあくまで〈古来種〉の英雄であるので、回復魔法を大量ダメージを受けている状態で使うと回復量を増

やすために自動的に昏睡状態に入ってしまう→敵に捕縛されて<冒険者>への救出クエストの入口になる。敵全体の行動や防御力を封じることができるがその間自分は攻撃ができない→<冒険者>にとどめを刺してもらわないといけない、など一見強いように見えて使い勝手が微妙に悪く<冒険者>のひきたて役的な英雄でもある

■『白翼姫』鈴香鳳

知名度はハーフガイア世界で最も高い模様。武器は巨大なヘビーウォーハンマー。知名度の高い〈古来種〉の英雄の一人。エリアス=ハックブレードと勝るとも劣らない(全世界的な)知名度がある。名前と二つ名は046で初出。

■“壊れた人形(ボット)”コッペリア

人間？／女／施療神官／戦司祭(ウォープリースト)

身長140センチほどの身体を、ヴィクトリアンメイド服に包んだ、少女姿の〈冒険者〉。

藍色のショートカット。施療神官は回復職の中では比較的重装備が可能のために、金属鎧を着用可能だが、金属製のメイド服〈ワーキングスーツ〉を普段から着用しているので、装備変更はない。

レアモンスターがPOPする界限で、延々と「狩り」を続けている女クレリック。一切言葉を発することも無く、黙々と機械的な動作で敵を殴り、ドロップを回収する、を繰り返している。

その正体は、某RMT業者が使用していたBOTアカウントである。人気MMOの例に漏れず、『エルダー・テイル』も、過去にRMTとBOTの跳梁を許してきた歴史があり、運営側の取り締まりは業界屈指の精度と厳しさであったものの、やはり完全に駆逐することはできていなかった。〈大災害〉後、現実世界のパリに相当する都市ヴィア・デ・フルールでカナミに拾われ、以降行動をともにする。たどたどしい話しぶりは「人形めいている」という印象をあたえることもあるが、元BOTとはなかなかかわからないほど人間らしくなっている。

<大災害>後も、当初はプログラムされた通りに「敵を見つけたら攻撃」「敵が落としたドロップを回収」「自身のHPが一定値を切ったら回復」というルーチンを繰り返していたが、主人たるRMT業者の手を離れたことが原因なのか、次第に自我らしきものが芽生え始めており、自身の存在と行動に疑問を持ち始めている。

サブクラスの〈戦司祭〉は、クレリック専用の特化オプション。少々回復能力が落ちる代わりに鈍器系武器の習熟を得る、いわゆる「殴りクレ」で、ソロ向き。

(ワタシ、は、ナゼ、此処ニ、居ル、の…？)(ワタシ、は、ダレ？ 誰カ、教えテ…)

◆“ミュータント・ニンジャ・パープル”レオナルド

種族不明／暗殺者／配達屋

・赤いアイマスクに忍者刀を背負い、マフラーをたなびかせた暗殺者。北米鯖では割と知られたキャラクターだが、その知名度は本人の強さ以上に、彼の奇異な外見によるものが大きい。ビッグアップルに在住していたが、〈大災害〉以降荒廃したホームタウンに失望し、〈妖精の輪〉に逃げこんだところが遥か彼方のアオルソイまで跳ばされ、テケリの廃都にひっかかって、成す術もなくなったところをカナミ、エリアス、コッペリアらのパーティに発見され以降日本サーバ管区への旅に同行することとなる。

・物体や身体の状態を操作することを得意とする〈変成術師(ミュートレーター)〉をサブクラスとして持つが、彼のそれはすでに仕様の範囲を大きく超えた異能となっており、交戦したモンスターの能力をその体内に取り込み“変異”させることで文字通り人外の戦闘力を発揮する。

・現在彼は北米鯖でも屈指の難易度を誇る連作クエスト「四季神の城」のボスモンスターの1つである「Genbu」の力を強く取り込んでおり、その影響で二足歩行するカメ、とも言える外見となっている。

・都市地下水路をホームグラウンドとし、迷い込んだ初心者のピンチに颯爽と駆けつけ、最低限の助力をして去っていくヒーロー的プレイを徹底しているようだ。

・人語を話す紫色のカメが、好物のピザを頬張りながら地下水路の敵を殲滅していく様はいろいろな意味で

圧巻である。

・切り札は変異能力をフル稼働させて繰り出す「巨大化」。

「マイネーム イズ レオナルド！ 気軽にレオって呼んでくれよな」「この地下水路でこれ以上のオイたは許さないぜ、ベイベー！」

「いくぜ！ パープルパワーだ！！

■春翠

〈楽浪狼騎兵〉に所属する巡廻師の〈施療神官〉。〈灰斑犬鬼〉に襲われて全滅したキャラバンの生き残り。050でカナミたちは彼女と彼女の護衛対象のジュウハとともに、東へ〈馬乳の都〉(シーマアナイクィ)へと向かうこととなっ